

令和4年度 農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策)
事業実施主体 評価一覧

1. 事業評価の実施

令和4年度に実施された「農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策)」の事業について、「農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策)実施要領」(平成29年3月31日付け28農振第2284号農林水産省農村振興局長通知)第8の2の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 事業評価結果の総括

今年度の評価対象外ではあるが、昨年度に重点指導の対象となっていた北海道内の1地区について、重点指導の結果を評価した。その結果、来年度も引き続き重点的な指導、助言等を行う地区はなかった。

3. 各地区の評価結果

1件(うち1地区は、今年度評価対象ではないが昨年度重点指導となっていた地区)

農政局等	都道府県	市 町 村	事業実施主体名	事業実施段階								評価	評 価 コ メ ン ト
				R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8		
本省	北海道	美幌町	美幌町観光まちづくり協議会										令和3年度に事業は完了しているが、引き続きの重点指導対象となっており、今年度は昨年度の重点指導結果の報告のみ。

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ソフト対策 ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)
ハード対策 ☆…交付対象年度(計画) ★…交付対象年度(実施済) ◇…目標年度(計画) ◆…目標年度(実施済)
重点指導 ▼…重点指導(通知) △…重点指導(結果報告予定) ▲…重点指導(結果報告)

(注2) 「評価」の区分: A…優良 B…良好 C…低調 評価対象外…評価対象外

4. 第三者機関の意見聴取

農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策)実施要領(平成29年3月31日付け28農振第2284号農林水産省農村振興局長通知)第8の3の規定に基づき、第三者機関である「農山漁村振興交付金(都市農村交流等)評価委員会」を組織し、評価に当たり意見の聴取を行った。評価委員会の委員及び開催概要は以下のとおり。

【評価委員会 委員】

委員長:大江靖雄(東京農業大学教授)

委員:市田知子(明治大学教授)、加藤由紀子(北海商科大学非常勤講師)、木村宏(北海道大学教授)、森久美子(作家・拓殖大学北海道短期大学客員教授)

【令和5年度評価委員会の開催概要】

第1回評価委員会
1 日 時 :令和5年7月20日(木) 9:00～12:00 2 場 所 :農林水産省農村振興局第2会議室 3 議事概要 ① 令和5年度評価対象地区の評価方法について 本年度の評価方法について、説明を行い了承を得た。 ② 令和5年度評価対象地区の評価及び取組状況について 今年度の評価対象外ではあるが、昨年度に重点指導対象となっていた1地区の重点指導結果に関して説明し、質疑応答を行った。 4 主な意見 なし。
第2回評価委員会
1 日 時 :令和5年8月8日(火) 9:00～10:45 2 場 所 :ホテルベルクラシック北見4階会議室(オーロラロイヤル) 3 概 要 ・第1回評価委員会における質問への回答及び評価結果案 今年度の評価対象外ではあるが、昨年度に重点指導となっていた1地区の重点指導結果に関して、了解を得た。 4 主な意見 なし。

事業実施主体名： 美幌町観光まちづくり協議会

令和5年8月14日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
北海道 美幌町	平成29年度	美幌町の新たなブランドイメージとして「生まれ変わる地」を掲げ、各種調査を実施しながら美幌町の景観を活かした各種エクササイズ、星空体験、美容と関係性の高い食事等の商品化や広報、体制づくりの計画を策定する。	農村漁村における農林水産物の販売・加工 ○農産物の高付加価値化 農山漁村の地域提案型活動 ○ヘルスツーリズム開発 ○グリーンツーリズム開発 ○協議会等開催

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

計画に掲げられた取組は実施されたが、一部、新型コロナウイルス感染症による影響を考慮しイベント開催を自粛せざるを得ない状況となり、目標値を大幅に下回る実績となった。

アフターコロナを見据えた取組や新たなコンテンツの開発に着手しており引き続き取組内容を見直すとともに、通過型観光となっていることから地域の強みである地場の農産物を生かした取組を実施するなど、近隣地域から更に人を呼び込む為の取組へと改善し、投下された交付金(国費)による成果が有効に活用されることを期待したい。

今後の持続的な取組を図るためにも、評価委員からの評価コメントを参考に引き続き関係者と連携しつつ、当初設定した目標の達成に向けて取組を工夫されたい。

2. 低調と評価された要因

事業実施計画で定めた目標について
「交流人口」の達成率は、28.5% (個別評価(c))
「売上」の達成率は、33.3% (個別評価(c))
「雇用」の達成率は、50% (個別評価(b))
いずれの項目も達成率が低調である。

3. 目標達成に向けた方策

交付金を活用して行った取組内容(地域資源を活用したコンテンツ開発、地元産農産物の付加価値向上のためのマルシェの実施や情報発信等)の成果を有効に活用しながら、コロナ禍により観光の形態が変わったことを踏まえ、新たなニーズに対応できるようコンテンツの提供方法や地元産農産物の提供・販売場所等を検討する。

4. 改善状況

コロナ化によるマイクロツーリズムのニーズの高まりを受け、北海道 道の駅ランキング「景色部門」で6年連続1位になっている美幌峠に着目し、美幌峠レストハウス1階をリニューアルし、地元野菜や食材を活かした農家レストランを令和4年4月にオープンした。集客力のある道の駅を拠点として、交付金事業で開発した体験コンテンツの提供や農産物の販売、農家レストランでの地元食材の提供などに取り組み、農家レストランも含めた4年度実績は当初の目標値に対して「交流人口」の達成率は4284%、「売上」が320%、「雇用」が114%と、本事業で掲げた目標値すべて達成する結果に改善することができた。